

パッチとサービスパックの適用

●セキュリティ関係用語（知っておく必要があるもの）

・バグ (Bug)

ソフトウェア（プログラム）内に存在するミス（不具合）のこと。設計時予定された性能が出なかったり、最悪停止してしまうこともある。

・セキュリティホール (Security Hole)

不正アクセスなど好ましくない状態や操作を許してしまう脆弱性のこと。「穴が空いている」というような表現を使う。バグにより生じることが多い。コンピュータ内にあるプログラムやデータの漏洩、破壊、改ざんなどにつながり、放置することは許されない。

すみやかに「セキュリティホールをふさぐ」必要がある。

・パッチ (Patch)

バグを修正したり、セキュリティホールをふさぐために用いる修正プログラムのこと。「パッチをあてる」とか「パッチを適用する」という表現を使う。

なお、マイクロソフトでは「ホットフィックス (Hotfix)」という表現を使うことが多い。

・アップデート (Update)

ソフトウェアを出荷後、新たに発見した不具合や便利な機能などを提供したもの。アップデートモジュールとかアップデートパッケージなどと呼ばれることもある。パッチのことをさすこともある。

・バージョンアップ (Version Up)

ソフトウェアに新機能を搭載して、新しく生まれ変わらせたもの。アップデートと意味としては変わらないが、小幅の変更や不具合の修正はアップデート、大幅に変更されたときにはバージョンアップと使い分けられることが多い。また、市販ソフトウェアのバージョンアップの場合は、料金を徴収することが一般的である。

・ウィンドウズ・アップデート (Windows Update) <http://windowsupdate.microsoft.com/>

パソコンの状態（OS や各種のドライバ）に応じて、インターネット上から適切なアップデートが自動的に組み込まれる仕組みのこと。WindowsXP からは新しいアップデートがあると、タスクトレイから報告される。これにより日常のパッチあても、だいぶ楽になった。

・サービスパック (SP : Service Pack)

Windows の不具合やセキュリティホールをふさぐパッチなどをひとまとめにしたもの。SP1 とか SP2 とかサービスパックにもバージョンがある。

「サービスパックを適用する」とか「サービスパックをインストールする」という表現を使う。なぜインストールかというと、アンインストールできるからである。OS 根幹の大幅な改変であるため、正常に動作していた一部のソフトウェアで支障が出たり、Windows そのものが起動しなくなることがある。

・セキュリティ・ロールアップ・パッケージ (SRP : Security Roll-up Package)

セキュリティ関係のパッチを集約したもの。セキュリティ関係のパッチは、あまりにも数が多く、使うパッチにも順番があるなどわかりにくい。そこで一定の数が揃った時点で、まとめてパッケージ化されたものが提供されるようになっている。

ただ、セキュリティ関係では待ったなしのことが多いので、これは再インストール時に使うと便利なものと考えるとよい。

●セキュリティホールの情報の入手

必ず以下のページを日常的に参照し、情報を入手したい。ウイルスが絡む場合は、ウイルスチェックソフトを販売するメーカーからも情報を入手することができる。

TechNet のセキュリティ情報ページ

<http://www.microsoft.com/japan/technet/security/current.asp>

JPCERT/CC

<http://www.jpCERT.or.jp/>

IPA セキュリティセンター

<http://www.ipa.go.jp/security/>

●セキュリティホール発覚後の対応

1. まずパッチ

セキュリティホールが発覚したときに、まっさきに提供されるのはパッチである。このパッチもその時点では多言語化（日本語対応）されていないこともあり、よく読まずに適用するのは危険がともなう。

パッチのダウンロードとパッチの適用は、管理者が手動で行う。サーバ管理では必須の作業である。

2. Windows Update

しばらくすると、ウィンドウズ・アップデートにも登録され、WindowsXP ユーザなら自動的に通知が出る。クライアントマシンなら、この程度のレベルでも間に合う。ただし、自動的にウィンドウズ・アップデートが動かないクライアントマシンでは、何らかの作業が必要となる。

また、パソコンの再起動をとまなうことが多いので、決められたメンテナンス時間に行えることが理想である。

3. セキュリティロールアップパッケージ

いままでのパッチ等を見過ごしていた場合は、まずセキュリティロールアップパッケージを使って、その後提供されたパッチを適用すると、パッチの数が減って楽になる。

4. サービスパック

何ヶ月もあとになってようやくサービスパックが提供される。Office など、Windows 以外でもサービスパックが提供されることもある。

●ダウンロードしたパッチのファイル名

ファイル名の規則を知るには、まずマイクロソフトが提供する情報の種類を知る必要がある。

・マイクロソフトセキュリティ情報

マイクロソフトセキュリティ情報は MS ナンバーで提供される。MS のすぐ後ろの 2 桁は年度を示し、後ろ 3 桁が情報公開時の連番となる。情報を提供するだけなので、対策に関しては後日ということもある。

・マイクロソフトサポート技術情報

マイクロソフトサポート技術情報は Q ナンバーで提供される。問題に対する対処や解決策が提供される。日本語で書かれたページが用意されると、同じナンバーで先頭が JA となる。

以上の前提で、以下の 2 つのパターンでパッチファイルが提供されている。

・WindowsNT 用

WindowsNT 用では、Q??????.exe とか JPNQ?????.exe という形式で提供されていた (?は任意の数字)。Q は英語版だが日本語環境でも使えるものがあり、JPNQ は完全に日本語環境向けのものである。普通は末尾が i のものを使い、NEC PC-98 シリーズの場合だけ末尾 n のものを使う。

・Windows2000/XP 用

ファイル名は以下のような、5 つのブロックをアンダースコアでつないだ構成となっている。

Q?????_w2k_SP3_x86_ja.exe

最初のブロックは、サポート技術情報そのままである。2 番目のブロックは対応 OS であり、Windows2000 なら w2k、WindowsXP なら wxp というようになる。3 番目のブロックは、サービスパックの番号をあらわし、上の例では SP3 に含まれる予定であることがわかる。すでに SP3 が提供されていて SP3 を適用すれば、このパッチは不要ということになる。まだそのサービスパックが提供されていない場合は、このパッチをインストールすると [アプリケーションの追加と削除] には、「Pre-SP3」という表現で表示される。

次の x86 はインテル CPU 向けのもので、最後の ja は日本語版ということである。

